

桐生新町町立て祭・422年 ～ 桐生春まつり ～

桐生新町町立て祭は、まちに賑わいを取り戻すため、毎年春に桐生のイベントの一つとして開催して行こうとするものです。桐生発祥の地、地域の宝として、桐生新町に誇りを持ち、先人が築いた歴史文化を大切に守り、育むため、再認識してもらう場として実施します。

桐生新町は、「徳川家康」の命により天正19年(1591)より慶長11年(1606)につくられました。代官「大久保長安」の手代 大野八右衛門が派遣され、基点に天満宮を遷座し、止めには浄運寺を配した、神様と仏様に守られた町です。その後、安永8年(1779)には、庄内松山藩「酒井忠休」の所領地となりました。陣屋が設けられるなど、歴史的な繋がりがあり、現在も旧松山町(山形県)の人たちとの交流が続いています。そして又新たに八王子や府中の皆さんとの交流も始まりました。

『大野八右衛門追悼祭』について

【日 時】 平成25年3月22日(金)(慶長19年(1614)3月22日没 没後399年)

【場 所】 鳳仙寺 本堂及び境内

【概 要】 13:00 開会

(予 定) 挨拶 桐生新町町立て祭実行委員会 東山実行委員長

桐生市 亀山市長

大野八右衛門末裔 大野聖司氏

大国魂神社 猿渡宮司

13:15 講話 鳳仙寺 坪井住職

桐生市立図書館嘱託 大瀬祐太氏

「大久保長安と大野八右衛門」

(墓碑前へ移動)

14:00 焼香

14:15 閉会

12:00 から境内屋台にて軽食などを販売します。山葵餅試食販売もあります。

大野八右衛門(?～1614)が行った「町立て」とは? その墓はどこに?

天正18年(1590)に桐生領は、徳川氏直轄地となった。これまで、黒川山中を含む桐生領54か村の村域は、柄杓山城を本拠とした由良氏の支配下にあった。

由良氏は、後北条氏に味方したため、常陸牛久へ国替えとなり、徳川氏の代官大久保長安の支配地へと替わった。

天正18年(1590)に長安の命を受け、桐生領を支配するために派遣された手代「大野八右衛門」は、由良氏の支配していた城下町(久保村町屋)が桐生領の触元としては狭く、規模が小さいため、桐生川扇状地上に位置する荒戸原に新町をつくって町屋を移すことを考え、久保村の南端を基点として、北は赤城ノ森までの直線上5町余を用地に充てることにした。

八右衛門は、久保村峯(現寂光院境内)の丘陵を削り取って平らにし、陣屋をつくり拠点とした。荒戸原の通路を広げて5間とし、その両側を、間口6間から6間3尺くらい、奥行40間から44間くらいに縄張りをして、短冊状1軒前の屋敷とした。高さ5尺ほどの土手を築いて郭とし、通路の西側へ用水路をつくった。

天正19年(1591)に新町の町並みが整ったところで、由良成繁の再興した久保村鎮守の梅原天神社を赤城ノ森へ移した。

当初は1丁目・2丁目の5町余であったが、慶長10年(1605)に、雉子ノ尾を基点として、南に11町余の縄張りをして、下瀨堀までの町並みを整え、3丁目・4丁目・5丁目・6丁目とした。そして、通路西側の用水路を延長し、下瀨堀へ抜けるようにした。このとき、新宿村から5丁目へ天台宗長福寺を、6丁目へ浄土宗浄運寺を移している。

長安の手法は、八王子・青梅の町立てと同じように、これまでの村境にとらわれることなく、将来の発展を見通した、新しい町をつくることにあった。そこで、由良氏の支配していた頃の城下町を触元としないで、荒戸原と呼ばれていた久保村の一部を分割し、新町をつくったと思われる。【ふるさと桐生のあゆみ】(桐生市教育委員会)より

さて、八右衛門の墓ですが、文化14年(1817)丑3月に上久方村にある鳳仙寺に金子太郎兵衛が訪れた時には、すでに石碑はみつからなかったといひます。当時の住職の話では「25、6年前まではあったが無縁仏になってしまったのではないか」ということが金子太郎兵衛の覚書に記録されています。

大野八右衛門の戒名は「太翁春陽居士」。慶長十九年甲寅三月廿二日卒と伝えられています。

この覚書によると、桐生新町6丁目にある浄運寺に石碑があったとも記されていますが、痕跡はありません。また、それらしき墓は梅田町1丁目の曹洞宗の桐生山鳳仙寺に昭和30年代初めまでありましたが、何らかの事情で今日では見ることはできません。かわりに桐生市指定重要文化財の由良成繁の墓の脇に供養の墓碑があります。【桐生の人と心】(桐生市教育委員会)より